

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予察 特殊報 第3号

- 1 病虫害名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda*
- 2 発生地域 大阪府
- 3 寄作物 飼料用トウモロコシ、スイートコーン、イネ、サツマイモ、野菜類など
- 4 発生の状況
 - (1) 令和元年10月1日、大阪府の飼料用トウモロコシ栽培ほ場において、葉を食害するヨトウムシ類が確認された(図1)。
 - (2) このヨトウムシ類について、10月2日、農林水産省神戸植物防疫所に診断依頼したところ、ツマジロクサヨトウ(*Spodoptera frugiperda*)と同定された。
 - (3) 本種の大阪府での発生確認は初めてである。
 - (4) 本種は海外では、北米～南米、アフリカ(サハラ以南)、アジア(インド、中国、タイ、ミャンマー等)に生息している。
 - (5) 国内では、令和元年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初めて確認され、その後、福島県、茨城県、千葉県、神奈川県、三重県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、沖縄県で発生が確認されている。
- 5 形態

終齢幼虫は体長約40mmで頭部の網目模様の淡色部が逆Y字に見える(図2)。
成虫は開張約37mm。オスのみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋を持つ。
卵は寄生植物に塊状に生み付けられ、雌の体毛で覆われる。
- 6 被害

幼虫が植物の葉、茎、花並びに果実を加害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。
- 7 防除方法
 - (1) ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。
 - (2) 大阪府は、植物防疫法第29条第1項の規定に基づき防除を行うこととし、以下に示された薬剤の散布の指導を行う。薬剤散布が困難な場合は、早期に刈り取りするとともに、幼虫の分散を防ぐため、ほ場への残渣のすき込みを行うこと。
(農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」
http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-32.pdf)



図1 被害葉



図2 幼虫